

| 今月の経済動向（平成26年12月）

● 月例経済報告/金融経済月報

	月例経済報告（内閣府・12月19日）	変化*	金融経済月報（日本銀行・12月22日）	変化*
景気基調	景気は、個人消費などに弱さがみられるが、緩やかな回復基調が続いている。 先行きについては、当面、弱さが残るものの、雇用・所得環境の改善傾向が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかに回復していくことが期待される。	→	景気は、基調的に緩やかな回復を続けており、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動などの影響も全体として和らいでいる。 先行きについては、緩やかな回復基調を続け、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動などの影響も収束していくとみられる。	↑
民間消費	消費者マインドに弱さがみられるなかで、底堅い動きとなっている。	→	雇用・所得環境が着実に改善するもとで、基調的に底堅く推移しており、駆け込み需要の反動の影響は全体として和らいでいる。	→
設備投資	おおむね横ばいとなっている。	↑	企業収益が改善するなかで、緩やかな増加基調にある。	→
住宅投資	下げ止まっている。	↑	駆け込み需要の反動減が続いてきたが、足もとでは下げ止まりつつある。	↑
雇用	有効求人倍率の上昇には一服感がみられるものの、改善傾向にある。	→	着実な改善を続けている。	→
生産	下げ止まっている。	↑	在庫調整の進捗もあって、下げ止まりつつある。	↑
国内企業物価	このところ緩やかに下落している。	→	国際商品市況の大幅な下落を反映して、3か月前比下落している。	→
消費者物価	このところ横ばいとなっている。	→	消費税率引き上げの直接的な影響を除いたベースでみて、前年比は、1%程度となっている。	→

* 前回からの変化: 上方修正 ↑、下方修正 ↓、据え置き →

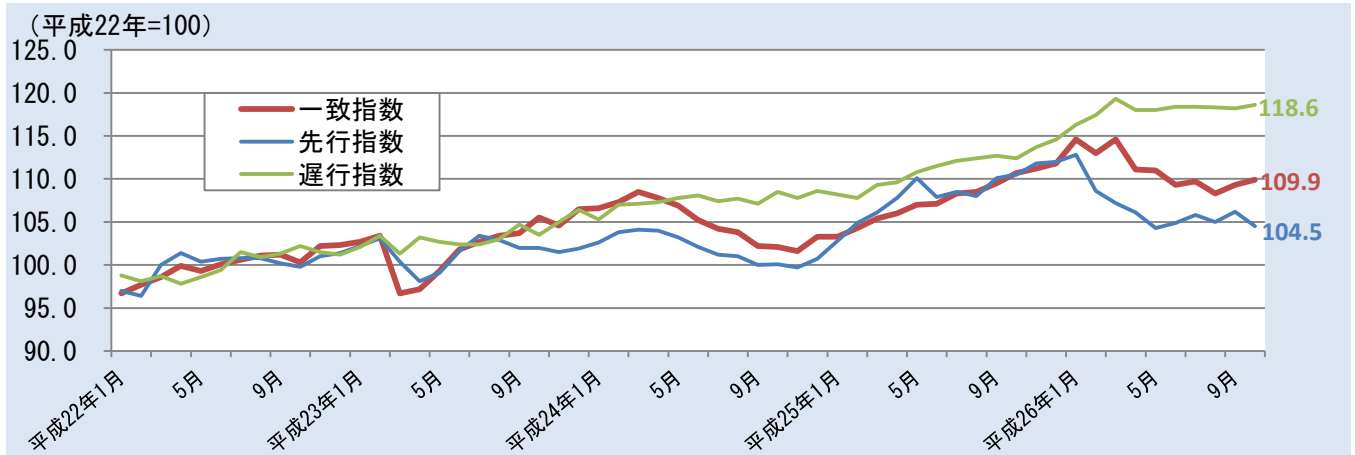
[月例経済報告:内閣府](#)

[金融経済月報:日本銀行](#)

● 景気動向指数（平成26年10月）

平成26年10月のCI一致指数(改訂値)は前月より0.6ポイント高い109.9ポイントとなり、2ヶ月連続で前月を上回った。CI先行指数は2ヶ月ぶりに低下し104.5ポイント、運行指数は4ヶ月ぶりに上昇し118.6ポイントとなった。
景気の基調判断(CI一致指数)については、「下方への局面変化を示している」を据え置いた。

・ CIの推移



[景気動向指数:内閣府](#)